

「東京工業大学 2類 サイクリング部 小林昭美」

今日は、なんと1月25日である。しかも、時間は23時30分に
なるようとしている。そして、雑誌の最終×切りは明日、つまり
26日土曜日である。(注意、これを寄ったのは、あくまでモ字
教を小やす為である。)ア〜ア〜どうしたらいいア? (突然
方言が出てしまった!) どうしたらいいのかしら。私にはわか
らないう? (今度はオカマチックに言、てしまった。) そう出
すのはやめようか、ワキマさんチ、クにごまかしてしまおう
かな。しかし、しかしだ。唇の非難の目が見えてくる。特にO
O先輩の非難がとんできそうだ。(注意: ここでOO先輩とは
小川さん、鈴木さん、安井さん、三浦(四)さんのうちの某でし
ょう? あわがりにな、た勇は、至急こちらに御連絡ください。
×切日: 昭和55年5月5日 子供の日。連絡先: 東工大サイクリ
ング部部室内 小林 昭美 まで。景品: アリス出版発行「少女
聖業、暴行」を1名様に差し上げます。) ア〜、又、字教をか
きだしてしまつた。しかし、ここでやっと四百文字だもんネ〜。

なんと、くだらないことを書いてないで、本題に入りたいと
思います。たしか、私の担当は、「サイクリング部内における
先輩方々の非人間性と一年生の相関関係について。」ではな
い、たのかと思うのですが、違つてしょうか斎藤さん。エッ、違
うんですか?。では、「タイムトライアルにおける人間の疲労度」

「オッ、コナ(脱落)の生理学的解析でしょうカ。」

「違うせ。」と石田が言うのであつた。

「△△先輩のアルコールと破壊行為並びに狂言の相關關係についてタロ。」

「バカだなあ。そんなことや、たら小川が怒るせ。小林の担当は、予備宿舎とサ、カーだろ！」

と山口さんおよび安井さんかお、ゆるのであつた。

そう、そうでした。私の担当は予備宿舎とサ、カーなのでした。私が初めて、サイクリングというものを経験し、又、I.T.C.C.の長い薙地のすさまじさを知ったのです。そう、つまり初体験なのでした。初体験ヨ〜。担当がわかつたところで一休み。(コーヒーとパンを食へる為に30分程度休憩をとります。)

さあ、ここからはマジにせまりたいと思います。予備宿舎は、たしか7月13日から(の)15日の3日間でした。私は、そのころサイクリング部に入部したばかりで、先輩方々、又、一年の同胞とともに親しみがございませう。それに、私の自転車、約10万円のケルヒムは11日にできたばかりでした。そんな状態で私は予備宿舎に参加したのでした。あまりの不_レ安のあまり、その前の晩はよく眠ることができませんでした。

「(実際祭は、高崎の新婚の夫婦の家に留まったので、ある事を期待して明け暮らしたのです。ある事とは、もちろん、予てですが)そして、13日、一足先きに私は中野井沢に行き、皆を待っていたのでした。そして輪行。その時、永見さんが親切に私にわかりやすく指導してくださいました。私は、永見さんてスラキな方だなあと実感しました。(この時が、私の永見さんへの第一次接近であった。まあ、その後の接近はいまだにない)本当に、永見さんてスラキな方ね?。そして、記念撮影。この時、私は、サイクリング部の虚栄心の強さというものを知りました。さあ出発でござりまする。

出発から、峠までの私の記憶はあいまいです。それほど、盛りはきついとは思わなかったからかもしれません。そして下り。この下りもあまり記憶がござりません。もうするに、第一目で記憶に残っているのは、永見さんと夜だけでした。夕飯はカレーでして、これは、マア マア だと思えます。そして、ついにやってきたネカ夜。私の隣りには、富田さんというスラキなオジサマがいてくださいました。(だって私は18才、富田さんは二十才でしょ。)オジサマは、私に緊張しないようにやさしくして下さいました。狭いテントの中で、トクホニッシュを使い、もろに私の目を刺激してくれました。その時私は、背中をツツーと走る快感を感じました。やはり、オジ

「サマッていうのはお上手ですね。

カー、翌日、起きてみると、昨夜からの雨がいまだに降って
おりました。その為、流し台のところで朝食。重いものでし
た。ブルジョアの私にとって、こんなところで食べるなんて初め
ての経験でした。その割には、堪憫れた感じで、たくさ
ん食べましたが、朝食の後、カー出発という時になって、誰
か忘れましたが歯をみがいておられた方がいたように思わ
れました。たしか、酒井さんではなかったかと思います。そ
の時、私は、酒井さんのデリケートなことに驚きました。
(だってとてもうろは見えないんですもの!)

出発後の記憶が少しおきりしないのです。どこまでか
という、草津温泉までなのですか。つまり、午前中の記
憶はまるでないのです。その草津温泉で、食料調査を
したところ、デリケートな酒井さんが腹をもらってまいりまし
た。デリケートな酒井さんがおま？。私は、酒井さんはデ
リケートな方だから、そんなものは着ないだろうと思っていまし
たら、あっ、かりその後着ておりました。

さあ、これから、最大のキモ、茨峠存のです。私は、心
細さのあまり、思わず、小島さんの目をじっと見つめてしま
いました。茨峠までの道は険しかった。苦しかった。今はいい
思い出である。しかし、登っている途中でいろいろなおことがあ

「)ましたヨ。まあ先輩方々のたくましさ。後の方で、元気にぞ
叫んでおりました。あれは誰の事だったのでしょうか。それから
から高橋さんかたくましがたり。予ウターで凶死に墮って
いったのです。おシをいりいり。高橋さんてたくましいなあ
と思っていたら、ちょっと先で休んでおりました。さらに高橋
さんについて、誰かが私をぬいていきました。一瞬、私は
「なぜ、ドラエモンが自転車に乗っているのだろうか。」と思
たら名取さんでした。(名取さんゴメンナサイ) たってお腹
のあたりを見たらどう思えたのですもの。さらに、車に乗っている
おじ様達が私をしきりにしゃかすのでした。「お前がべい)だ
ぞ〜)」とか「頑張んべ〜)」とか「スホニが破けてる
ぞ!)」とかいって。そのたびに私は顔をあからめて下を向いて
しまいました。突然ここから私は界に戻ります。あともう少しで
終わりだと思っていたら、フェアレディーZに乗ったお姉ちゃん
が「ホク、頑張って〜)」とニッコリと笑っておれを応援して
くれた。おれはその時、突然、力がわいてきて、そのフェアレディー
をシャカリキになて走りかけてしまった。毎ど)以上のでき
ごとがあったのです。そして山崎についたのです。皆が、私を
あたかくむかえてくれました。(そのように感じたのは私
だけだったのだろうか?)しかし苦しい山崎であった。皆、そ
う思いませんでした。

「木は、下りであった。しかし、その途中、私は、チェーンをはずしてしまった。その時、木のオシサムがやさしく修理してくださいました。私、オシサムが好きになってしまいました。その例えば、前日にチェーンをはずした時も、志菰さんが修理してくれた。話を元に戻しまして、下りは最高だった。すばらしかった。あまりのすごさのあまりに、石田が鼻を倒した。それを私は村瀬は何気なく掴んでしま、て非難された。しかし、下りは、すばらしかったという実感が残っているだけで、さほど記憶には残っていないのです。

つー疲れた。ここで一休み。(何をやるかというとい、エロ本を取り出して、マスを書かせていただきます。もし、これから先、液体状のものが見ついたら、それは私のヨダレか、あるいは、O-Xニです。あしからず。)

さっぱりしたところで再び書きます。その日の夕飯は、マカヒや、食べたカマ飯とトシオでございました。そして、その分配について私は非難されてしまいました。つまり、分配が均等でなかった。世間知らずの私は、皆様がそれほど飢えているとは知らなかったのです。恥ずかしいことですね。さて、第3日目について書きたいのですが、何も記憶に残っていないのです。そこで、リコーしていき、急行「妙行」が

「上野に着いたところまでとひたいと思います。そこで三井は降りよこねて、車を止められてしまったのです。その為、彼は非常ロックを使っていたみたいです。(ミジメヤー)

以上で私の文を終わりにしたいと思います。なお、文中失礼なことを書いたことをおわびします。さらに、文筆がオカマチックになっておりますが、私は男に興味をございません。ゆえに、その方々の種々な興味のあることは御慮ください。サイクルサッカーをやっていても、私はホモではございません。